

日本では廿日市市だけにすむ、 とてもき重^{ちよう}なトンボのはなし

みんなは「ミヤジマトンボ」という貴重なトンボを知っていますか？ここではミヤジマトンボについて説明したいと思います。

●ミヤジマトンボってどんなトンボなの？

ミヤジマトンボとは、日本では、宮島の一部の湿地^{しっち}にしかすんでいない、シオカラトンボに似た、とてもき重なトンボです。

そのため、国と県から最も絶滅^{ぜつめつ}が心配される生き物（絶滅危惧種^{ぜつめつ きぐしゆ}）に指定されています。



(こどものミヤジマトンボ)

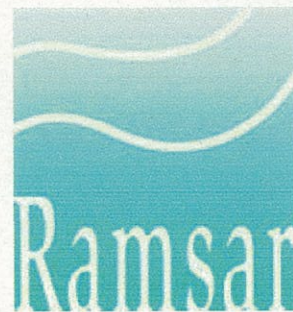


(おとなのミヤジマトンボ)

●ラムサールじょう約に登録！！

これまでミヤジマトンボを守る活動をしてきた人たちのおかげで、2012年（平成24年）7月、国際的なきまりごとであるラムサールじょう約に登録されました。

ラムサールじょう約とは、正式には「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関するじょう約」といいます。1971年（昭和46年）、イランのラムサールという都市で決まったじょう約です。



(ラムサールじょう約ロゴ)

●ミヤジマトンボはどんなところにすんでいるの？

ミヤジマトンボは、川が海に流れこむところで、たん水と海水がまざり合う汽水^{きすい}いきというところにすんでいます。

ミヤジマトンボがすんでいるところには、ヒトモトススキという植物がいっぱいはえており、ミヤジマトンボはヒトモトススキの上を飛んだり、止まったりしています。



●ミヤジマトンボの実物を見てみたい！！

残念ながらミヤジマトンボのすむ湿地^{しっち}は、ミヤジマトンボの安全を守るためにひみつになっています。また、ミヤジマトンボをつかまえることもきん止されています。

これからもみんなで、ミヤジマトンボとミヤジマトンボのすむ湿地を守る取り組みを進め、ミヤジマトンボの数がふえていったら、ミヤジマトンボに出会えるときがくるかもしれませんね。

廿日市市の取り組み

廿日市市は、ラムサールじょう約^{やう}が登録されたことをうけて、2013年（平成25年）に「宮島ラムサールじょう約連絡協議会^{れんらく}」をせつ立しました。

この協議会は、市民や関係者、国、広島県、廿日市市がメンバーとなり、ラムサールじょう約の「保全・再生^{さいせい}、交流・学習^{けんめい}、賢明な利用」という目的にそって、自然を良くしていくために努めています。

